

「群馬県一大きな笠懸小学校は思いやりも群馬県一」を目指します！



みどり市立笠懸小学校
学校だより No.16
2021.3.24

<https://midori-school.ed.jp/kasasho/>

「疾風(しっふう)に勁草(けいそう)を知る」(卒業式・式辞より)

校庭の桜がほころび、春の足音をすぐそこに感じる今日この頃となりました。規模を縮小いたしますが、令和二年度の卒業式を、みどり市教育委員会教育長・石井逸雄様、PTA会長・山崎成二様、そして多くの保護者の皆様のご臨席のもと、挙行できますことに心より感謝申し上げます。

まずは、卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。今年度はコロナ禍により、忍耐の日々が続きました。誰も経験したことのない非常事態でしたが、みなさんは実に冷静に、そして賢く学校生活を送り、心も体もたくましく成長しました。

群馬県で一番大きな笠懸小学校は、群馬県で一番たくさんの方の個性に触れることができる学校でもあります。多くの友達と過ごす中では日々さまざまなできごとがあり、たくましく六年間を過ごしてきたのですから、他の学校の子どもたちにはできない経験をしたこととなります。それは貴重な財産として、みなさんの生きる力となって働くものと信じています。



今年度を振り返ると、三月から続いた休校により、学習内容がしっかり身に付くのか、新しい友達とよい関係が築けるのか、さぞかし心配したことでしょう。しかし、学校再開後のみなさんは、明るい笑顔とみなぎるエネルギーで、最上級生としての役割を果たしてくれました。また、運動会でもさまざまな制限がありましたが、みなさんの力強く走る姿や鼓笛パレードの勇壮な姿からコロナ禍をも吹き飛ばす感動をもらいました。また、修学旅行は日程と方面を変更しましたが、思いっきり楽しんでくれている皆さんの姿を見て、少しだけ心が軽くなり、救われた気持ちになりました。

難しい言葉ですが、「疾風に勁草を知る」という言葉があります。「疾風」とは強い風のこと、そして「勁草」とは風雪に耐える強い草のことを言います。つまり、「疾風に勁草を知る」とは、逆境や困難にあったときこそ、その人の真の強さが分かるということです。普段はニコニコしていても困難に遭った時にすぐに心を乱してしまうのではなく、強い風に吹かれても決して折れることのない強さや、強い風を受け流すしなやかさが大切です。このコロナ禍では、まさに世の中全体がその真価を問われていますが、みなさんには強く、そしてしなやかに生き抜いて欲しいと思っています。

みなさんが社会で活躍し始める約十年後から、そして社会を動かすようになる二十年後、三十年後は、「超スマート社会」と言われ、AIなどの進歩によって今存在する職業の半数が無くなると言われていています。その予測不可能な激動の時代で大切なのは、自分の頭で考え、自分で生き方を決めていくことです。高度な先進技術を活用するのはあくまでも人間ですし、社会の主役もまた人間なのです。強く、しなやかに生きる力の基礎をこの笠懸小学校で学んだのですから、どうか自信をもって、目標に向かって進んでください。

保護者の皆様、六年間慈しみ育てられたお子様のご卒業おめでとうございます。この六年間は、語り尽くせぬご心配、ご苦労があったことと思います。お子様の最大の理解者である皆様の愛情と努力が結実し、今日を迎えられたことを改めてお祝い申し上げます。また、本校の教育活動に深いご理解と多大なるご支援を賜りましたことに教職員を代表して心より御礼申し上げます。

最後になりますが、中学校でも、人と人との結びつきを大切に、自分のよさをさらに伸ばしてください。そして、世のため、人のために尽くせる人になってほしいと願っています。

卒業生百八十二名の前途に幸あらんことをお祈りし、式辞といたします。

令和三年三月二十四日 みどり市立笠懸小学校長 吉田 努